



生徒研究発表大会 関東・東海地区優秀賞獲得！

11月11日、第43回全国水産・海洋高等学校関東・東海地区生徒研究発表大会において、本校が優秀賞（第2位相当）を獲得し、12月16日に秋田県男鹿市で開催される全国大会に出場することになりました。

発表者は、水産科2年齋藤心聖君、遠山夏雄君、廣田晃君で、『持続可能な河川環境と内水面漁業を考える～環境が激変した身近な武茂川を救え！』の研究題名で発表しました。令和2年度以降、実習場で水を取り入れている武茂川でも国土交通省による河川計画の見直しに基づいた河道掘削工事が行われています。その結果、河川環境が著しく悪化し、本校の過去の研究から大量の砂やシルト等が流出したことが確認されています。

発表内容は4つの観点から審査されますが、本校の発表は「実践が計画的かつ具体的・継続的なものであるか」「社会的貢献度が高く、地域への影響力を持つ内容であるか」等が高く評価されました。また、発表の仕方は高校生らしくはつらつとして素晴らしく、本校の研究レベルの高さと内水面を専門とする水産科の存在をアピールすることができました。



実践活動として「アユ漁場定期健康診断票」に基づいた調査では、武茂川はアユ漁場としては不適であることが判明しました。そこで、策定した「武茂川アユ不漁対策プラン」を那珂川町議会で発表する予定です。また、今回の取り組みの一部が令和5年度以降の水産庁事業に盛り込まれる見込みになり、本校の研究が大きな広がりを見せることになりました。